

積極的な林道維持作業

新城営林署 齊藤 義一 小川 勇夫

私達は団子島製品事業所に勤務し林道の維持管理事業に従事しております。林道の維持管理は一般には関心が乏しいように思われますが、道路の管理は国有林野事業遂行の第一歩の作業であると確信し誇りをもって作業に当たっております。

従来までは主として、維持修繕は人力による路面補修、側構の整備等比較的軽易なものを実行してきましたが、これでは大雨等による林道破壊に対して後手に回るため、これらに対応できるよう自分達でやれそうな事を積極的に企画し、林道の保全に努めておりますが、この実態を述べたいと思います。

第一点

私達は、4名のグループで作業をしておりますが、積極的に作業を進めていくためには、先ずもって同僚間の連携プレーが大切であり、安全作業には欠かせない、明るい職場作りにも意欲的に取り組んでおります。

第二点

保線の業務は月々の気候、気象の状況によって左右されますが、自分なりに企画したものを話し合い理解し合ってから実行に移します。

この主なものは、暗渠の改修工事です。具体的に申しますと木製の暗渠が腐朽して損壊状態にあり、今後トラック運材を約900m予定しており危険なことからヒューム管に取り替えた作業です。巾員は6mで堀削の高さは1m40cmから3m80cmあり、ヒューム管の長さは1mで直径60cmのものを八本継ぎにした小工事です。調査の時点には不用のコレゲートを活用し、現在腐朽している暗渠を支保工に利用する予定で手堀りで堀削を始めましたが、調査の手違いでコレゲートが大き過ぎて使用ができなかったため、急拠変更してヒューム管と取り替え現物を間に合わせて貰いましたが、生憎の雨降りで今迄の作業からしてみると危険な作業でもあり、不訓れと不安で同僚だけで作業を進めるにはトラブルもあり、安全面にも支障もあり得ることから、話し合いによって職員にも協力を願う事で実行しました。改修の必要上連日の雨でしたが予定なしの通行止もできませんので、泥まみれに成っての作業でしたが、主任を始め職員と同僚の協力によって完成させました。延人員は16人。作業方法としては、ヒューム管を組合せるのにチルホールとスナッチを使用して、労力の削減を図りました。

過去の経過をたどってみますと、一昨年までは路線を区分して二人作業であったために、今迄の習慣が板について消極的な気持が強かった事と積極性はあっても地山堀削作業主任者の資格がないために、自信と勇気が欠けていたと私なりに判断しましたが、この暗渠の改修工事で自信を得て、急傾斜で排水溝が小さいために大雨の度毎に路面に犯濫する箇所コレゲートの入れ替えを実行しました。最初

の予定としては、ハンドドーザを使用して堀削するつもりでしたが、山手にグリ石を針金でネットしてありましたので活用できませんでしたが、たまたま通りがかりのユンボに荒堀りをして貰いましたので、労力は軽減されましたが、組立の際ボルトが穴に合わせれば波に合わなかつたりして苦勞しました。

巾員は6 m 7 0 cm、コルゲートの長さは6 0 cm、直径1 mで1 2組使用し延人員は1 4人でした。

第 三 点

ハンドドーザの活用です。人力では手間のかかる落石を取り除くため、ワイヤーを使用して実行しております。具体的に申しますと、ハンドドーザの索引箇所にはソコを作り、ワイヤーの両端にシャックルとフックを取り付けて、一定の箇所まで索引してから排土板で取り除きます。安全対策としては、ワイヤーの長さは約4 m。余り短いとハンドドーザと障害物の間が狭くなり操作も困難で危険が伴います。なお、方向変換の場合は絶対に内角に入らない事です。策引能力は約250 kg程度です。又、木製バケツを作製し土砂の運搬に活用しております。土砂の運搬は下りへは一輪車でも充分ですが、上りは相当の労働強化にもなりますので考案しました。運搬能力は約260 kg程度です。

作業を進めるには同僚の協力と理解により、小さな問題でも日頃の研究と努力の積み重ねによって、勇気と自信を持ち飛躍した作業にも取り組む事が、如何に必要であるかを身を持って体験しました。今後も安全第一として労力の軽減と職場に応じた無駄な経費を節減して道路の維持に一層努力し、積極的な作業を進めていきたいと思っております。

コルゲート取り替え作業





ハンドドーザの活用木製バケット

